「それでいいんだよ」と「それでいいのか」

校長　三輪　太雄

法隆寺

金閣寺

６年生、奈良・京都への修学旅行。世界遺産「法隆寺→奈良公園（春日大社・東大寺・興福寺）→二条城→金閣寺→清水寺」を巡りながら、さまざまな（再）発見をし、見聞を広めることができました。
ガイドさんの話に聞き入り、メモをとり真剣に見学する・規律やマナーを守る・あいさつがきちんとできる子どもたち。一方、ホテルの部屋では、羽目を外して、仲間と騒ぎながら楽しい時間を過ごす子どもたち。時･場所･場合に応じ、声をかけ合ってバランスをとり、わきまえて行動できる姿が、本当に素敵でした。

岐阜県PTA連合会が発行している機関誌「わが子のあゆみ」。県内各校及び各校PTAの様子がわかる記事や親として教師として学べる特集が多く掲載されています。創刊は、昭和26年。発行は、昨年度末までに、437号を数えます。保護者の方（※現在は、PTA予算で4部購入し回覧）はもちろん、地域の方も、お子さんが小中学生だった頃、目にされたことがあるかと思います。
現在、掲載されているもの中で、私が最も惹きつけられるのは「私の先生」（平成24年度スタートの連載特集）。現役の教師が、心に残る先生（※必ずしも教員とは限りません）との想い出等を書き綴るものです。昨年度1月号において、土岐市の中学校の先生は、両親を「私の先生」として、こう書き綴ってみえます。

> 私の父は、「○○であるべきだ」「○○でなければならない」といつも言う人でした。ですから、私は幼いころより、「こういうときは、こういうふうにしなければならないんだ」「ここでは、こうしてはいけないんだ」と考えることが常でした。「ねばならないこと」が、身の回りにあふれていました。一方で、母は、私のすることすべてに賛成する人で、「もうそんなことがわかるの?」「へぇー、すごいねぇ！もうできるようになったんか」という言葉を何度もかけてもらいました。何かにつけて、私のすることを褒めたり励ましたりしてくれるので、母の言葉を聞くと、「できないことまで、なんだかできるような気がする」と思えました。（中略）
> 褒め、認め続ける母親、そして、否定あるいは激励し続ける父親に、そんな言葉を浴びせられることで成長してきた私は、今考えます。「それでいいんだよ」と言われ、自分の可能性が広げられたこと、「それでいいのか」と言われ、自分を見つめ直すことができたこと。その両方があったからこそ、今の自分があるということです。両親がどのようにバランスをとってきたか、それが意図的であったかどうかは確かめていません。しかし、認められた後には、必ず自分を見つめさせる言葉がありました。そして、叱られたり、戒められたりした後には、よい部分を認める言葉がいつもあったのです。（後略）

褒め認める「それでいいんだよ」と自分を見つめ直させる「それでいいのか」。シンプルな言葉ながら、よりよい子（人）育てに欠かせないものが、この二つの言葉の中に凝縮されていると思うのです。「褒める」と「叱る」･「認める」と「見つめ直させる」･「受け止める」と「突き放す」･「ゆるめる」と「引き締める」･「信じる」と「少し疑ってみる」…、二つのことをバランスよく行うことによって、よりよい子育てや学級づくりをされた親さんや教師をたくさん見てきました。また、それとは反対に、バランスがどちらかに偏りすぎて、とても苦労されたり、ずいぶん悩まれたりした親さんや教師もたくさん見てきました。
皆さん、二つの言葉をバランスよくかけながらの子（人）育てができていますか？ 夫婦間や家族間で、二つの言葉をかける役割はありますか？ また、ご自身に、「それでいいんだよ」「それでいいのか」の二つの言葉をかけてくれる“私の先生”（夫･妻･親･友人…）はいらっしゃいますか？

○一輪車教室　5月29日（金）

10月の運動会に向けて、小山先生を招き今年度第1回目の一輪車教室が行われました。1年生の3人は、それぞれに練習を重ね2年生の援助もあり、この2ヶ月でずいぶん上達してきました。3，4年生は、新たに4人の3年生男子を交えて、中学年としての技の練習をみんなで相談しながら進めてきました。5，6年生は、今年度から新プログラム(新曲)にチャレンジすることになりました。それぞれの学年の子どもたちは、小山先生からいただいた助言を胸に、今後一生懸命に取り組んでいきます。

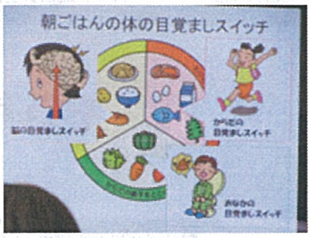
○資源回収・救命救急法　5月30日（土）

大変暑い日になりましたが、資源回収を地域・保護者の皆様のおかげをもちましてスムーズに実施できました。ありがとうございました。

今年から、全学年が参加して行いましたが、低学年はアルミ缶やビンの仕分け作業、中学年以上は新聞雑誌などの積み込みに汗を流しました。家族全員での作業となった家庭もあったようです。子どもたちは地域の方や親御さんたちの協力体制を肌で感じ、学ぶことがたくさんあったと思います。

また、救命救急法では、1，2年生も親子でいっしょに体験しました。昨年までに経験した上級生は、一人ずつ「心肺蘇生」に取り組みました。講師の消防署の方には、「毎年やっても、心停止の人に実際に直面するとなかなかできない。」「心肺蘇生を救急車が到着するまで続けることは一人では困難である。」と指導されました。確かに、動揺したら手順がわからなくなりそうですし、心肺蘇生を続けるには何より体力が必要であるので、まわりに救命救急法を知っている人がひとりでも多くいてくれることが大切だとわかりました。

○栄養教室＆給食試食会　6月1日（月）



今年は、全学年保護者を対象に「栄養教室＆給食試食会」(PTA家庭教育学級主催)を実施しました。栄養教室では、栄養教諭：遠山致得子さんから次のようなお話を伺いました。学校給食では、季節感、噛むこと、郷土食、地元食材、食習慣などを大切にしている。朝食の重要性、食事のマナーも教えていきたい。「食べることは生きること」「食べることは楽しいこと」を子どもに伝え、『自分で考えて食べられる子』になってほしい。最後に、家庭では是非子どもと一緒に料理をして、食に関するよい思い出を作ってほしいとのことでした。

給食試食会では、いつもより人数が多くて、給食当番の子どもたちは配膳に手間取りましたが、お母さんとの給食にみんなにこにこ、特に低学年の子どもたちはうれしそうに食事していました。

6、7月の予定

<6月>

1日（月）家庭教育学級
「栄養教室、給食試食会」
3日（水）心電図血液検査
4日（木）学童はみがき大会5年
5日（金）耳鼻科検診
11日（水）美浜研修交流会（北小）5年
12日（金）球技大会②③
15日（月）読書週間～26日（金）
家庭学習充実週間～21日（日）
16日（火）交通安全教室
18日（木）プール掃除
27日（土）授業参観、学級懇談会
29日（月）振替休業日
30日（火）プール開き

<7月>

6日(月)七夕集会
9，10日(木金)美浜研修5年生